

【第1章】検討にあたって

1 外遊び検討委員会の設置:「子ども計画第2期」の重点政策「子どもの生きる力の育み」における「外遊びを推奨」を具体化するため、子ども・子育て会議の部会として、外遊びや子育て支援に関わる活動団体、区民、行政、学識経験者で構成する「外遊び検討委員会」を設置。

2 世田谷区で外遊びを推進するために:基本的な方向性として、世田谷区のすべての子ども達に、自由に創造的な外遊びの機会を作るために社会全体で取り組む大切さを広げることがある。乳幼児期から十分な外遊びを経験することは、心身の成長を促し、保護者の意識を含めて小学生以降の外遊びの充実にもつながる。学術的な研究結果では、水辺や緑地など自然の豊かな環境が子どもの成長に効果があるとする報告等もある。

【第2章】現状と課題

1 外遊びの現状

- ・遊び体験が少ない世代が親となっており、大人自身が外遊びの方法を知らない。
- ・親が子どもの遊びに制限を加えがち。
- ・運営に力を入れるという人が減っている。
- ・子どもたちが遊ぶ為の時間、仲間、空間(場所)の3つの「間」の不足がある。
- ・公園等に子どもの声がうるさいという苦情もある。
- ・公園に禁止事項が増えていく。
- ・乳幼児にあった遊びの場が減っている。
- ・土、泥、水、木登り等自然体験がなかなかできない。

他

入って遊べる水辺が近くに無い

地域の繋がりが減った

2 外遊び推進に向けた課題

(1)外遊びについての意識のあり方と外遊び体験の不足

大人の外遊び体験不足やその重要度の認識の低下、乳幼児親子の外遊び機会の不足、学童期以降の子どもの遊ぶ「三間」の不足等
外遊び体験や大切さについての理解を広めるために、地域のよりどころになるものができるか?

(2)遊び場の不足

自然体験や街の中での遊び場の不足
自然体験や思いきり遊べる外遊びの場をもっと充実できないか?

(3)外遊びを支える側の課題とネットワークの希薄

子ども関連施設での外遊びの重要性への認識向上、利用しやすい外遊びの場作りの必要性)、遊び場を支える地域の繋がりが、担い手の養成、行政と地域との協力など
外遊びの大切さを発信し、各活動の充実と担い手を育てる力を集結させるネットワークが作れないか?

3 世田谷区における外遊び活動の分布

プレーパークやプレーリヤカーをはじめとする外遊び活動に地域偏在がある。砧地域はこうした活動が広がっていない。

【第3章】今後の方向性

1 外遊びの拠点を作ろう

各地域で外遊び体験を広め伝えていくためには、子どもの参加・参画を得ながら、地域の中核的な場所があり、そこが中心となり、ネットワークをつくり進めていくことが効果的。その役割は、今のプレーパークが機能を充実することで担える。

2 プレーパークときぬたまあそび村を更に充実させよう

緑と土を大切に地域の人と作り上げた地域の特色を持った遊び場であるプレーパークと、多摩川全体をフィールドに、全区にいる水辺の活動者たちとともに環境学習を取り入れた遊び場であるきぬたまあそび村を、それぞれの特色を大切に充実させる。

3 それぞれの団体の活動を発展させ、ネットワークを作ろう

それぞれの外遊び活動を発展させるとともに、区民、活動団体・事業者、行政が一体となるネットワークを作り、外遊びの大切さを発信し、活動と担い手を広げていくことが必要。

【第4章】今後、みんなで実現しよう

区民として

外遊びの大切さを子ども達に伝えよう!

活動団体・事業者として

みんなで手を繋ぎ誰もが参加しやすい

外遊び活動を充実させよう!

行政として

垣根を越え目標をもって広く協力体制を

作っていきましょう!

外遊びネットワークをつくって、外遊びの大切さを伝える活動の充実をめざす外遊びプロジェクトを始動しよう!